

令和元年6月20日現在

機関番号：32529

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2018

課題番号：25463354

研究課題名(和文) 看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価

研究課題名(英文) A study for Development and evaluation of medical safety education program by clinical collaboration for nursing students

研究代表者

渡辺 八重子 (WATANABE, YAEKO)

亀田医療大学・看護学部・准教授

研究者番号：80627232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：A看護大学の医療安全教育プログラムを履修した4年生14名を対象にインタビューを行い、学生の学びについて質的に分析した。【医療安全に向けた自分の傾向と課題および抱負】、【医療安全を維持するチームの構成と条件および特徴】、【リスクセンスの向上と危険回避の実践】、【医療事故発生のメカニズムと危険を増大させる様々な要因について理解する】など、8つの学びのカテゴリがあげられた。これらの学びをQSENの安全のコンピテンシーと照らしあわせた結果、75%に相当すると考えられた。有用性のある教育について分析した結果、第一に臨地と看護基礎教育機関との協働による医療安全教育があげられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2009年に基礎看護教育において新カリキュラムが発動し「統合分野」が設けられ、「医療安全の基本的知識の習得」が謳われた。しかし、何をどこまで、どのように教えるか、どのような教材が適切かといった検討が充分に行われていない。さらに、教員の医療事故防止に向けた教授活動の必要性についても明らかにされていないといった報告もあげられており、医療安全教育プログラムの開発に向けた検討は今も続いている。米国の看護大学では2005年よりQSEN(看護師のための質と安全教育)に基づいたカリキュラムが普及されてきている。日本の看護学生の医療安全教育プログラムをQSENの視点から評価することに意義がある。

研究成果の概要(英文)：Interviews were conducted on 14 senior nursing students who participated in a quality and safety program within a Baccalaureate curriculum. Using a qualitative approach, the results were analyzed based on their learning outcomes to see whether these students gained safety competencies identified by the QSEN. Eight categories of learning outcomes have been identified; e.g., individual student's own attitude, issues, and hopes for improvements toward safety; a health care team composition and characteristics that maintains quality and safety, increasing sense of recognizing risks and developing practice to reduce those risks; understanding why and how incidents occur. These learning outcomes were thought to have achieved the level equal to the 75% of outcomes identified by the QSEN competencies. The study also revealed that a collaboration between basic nursing program and its clinical partner organizations was crucial for teaching quality and safety to students.

研究分野：看護教育

キーワード：看護学生 医療安全 臨地実習 臨床 大学 連携 QSEN コンピテンシー

## 1. 研究開始当初の背景

米国政府の AHRQ (Agency for Healthcare Research and Quality; 医療品質研究調査機構) はチームの能力についての知識を得るために、軍隊、航空業界、原子力、その他産業を 25 年間以上追跡し、チーム及びチームワークについてのエビデンスを獲得してきた。2005 年こうした研究に基づき医療提供者チームが患者に安全で質の高い医療を効率的に提供することを目的として構築されたツールが TeamSTEPS である。具体的には、患者ケアチームがリーダーシップ、状況監視、相互支援、コミュニケーションといったスキルを活用し医療におけるチームパフォーマンスを改善していくものである。また、同時にチームパフォーマンスを左右する知識や態度を改善するものである。これらのスキルは他人に教え、訓練し、評価することができるツールとして開発された。TeamSTEPS の成果は、医療事故の減少、医療費削減、在院日数の短縮、患者満足度向上、職員満足の向上、組織の安全文化の醸成と定着が報告されている。既にシンガポール、オーストラリア、韓国、台湾へ導入されており、これらの成果を背景に、WHO の Patient Safety Curriculum guide Multiprofessional Edition にも教育資源として掲載されている。

研究責任者は、2009 年、日本の A 総合病院のチームステップス推進委員会を発足させ、産婦人科病棟をモデルチームとして TeamSTEPS を導入し、そのプロセスと成果を評価した。

チームワークの改善、医療事故の減少、インシデントに伴う負のアウトカム及び費用の削減、看護師の退職率低下を認めた。2012 年には、A 総合病院で実習する B 大学看護学部へ異動。医療安全教育を担当することとなった。チームステップス推進委員会の活動はオブザーバーとして参加継続。当時の基礎看護学教育カリキュラムで、医療安全という科目を設定している大学は数校で、何を、どこまで、どのように教えるのかが検討されていた。研究責任者は、自身のこうした背景を活かして、病院の医療安全を推進するとともに、看護基礎教育における学生の医療安全にかかわる知識・技術・態度の学習に寄与するプログラムの開発という着想を得た。

## 2. 研究の目的

この研究は、病院と大学の協働を通して病院の医療安全を推進するとともに、看護基礎教育における学生の医療安全にかかわる知識・技術・態度の学習に寄与するプログラムを開発し評価することを目的とする。TeamSTEPS (チームとしてよりよい実践と患者安全を高めるツールと戦略) は、WHO の Patient Safety Curriculum guide Multiprofessional Edition にも教育資源として掲載されている。

## 3. 研究の方法

平成 25 年度は、病院と大学の協働モデルについての情報収集を行い、日本、米国における先駆的な取り組みの実態について現地調査する。そこで得られた成果を反映し、病院と大学の協働を通して、看護基礎教育における学生の医療安全に関わる知識・技術・態度の学習に寄与するプログラムを開発する。平成 26 年度には、2 年生の医療安全教育演習でプログラムを施行・評価する。平成 27 年度は、3 年生の成人看護学実習でプログラムを施行・評価する。また、途中経過を公表する。平成 28 年度には、4 年生の医療安全講義と実習および看護の統合と実践臨地実習で開発プログラムを施行・評価する。平成 29 年度は最終レポートとして本研究をまとめ、成果を公表する。

## 4. 研究成果

(1) 平成 26 年度は、米国における先駆的な取り組みとして、Quality and Safety Education for Nurses (QSEN; 看護師のための質と安全教育) について視察調査を行った。看護学生が持つべき 6 つのコンピテンシー (実践能力) として「患者中心のケア」「チームワークとコラボレーション」「EBP」「質の改善」「安全」「情報科学」が定義され、各コンピテンシーにおける知識・技術・態度が明示されている。こうした QSEN の考え方に基づいたカリキュラム改正が米国看護協会の協働で多くの看護大学に広がりにつつある。現在、これら 6 つのコンピテンシーをどのように教えるのかが、全米の看護大学で検討され、QSEN Institute に公開されている。

(2) 組織の安全文化の醸成に関わる要因の研究 TeamSTEPS 導入による安全文化の変化を通して、TeamSTEPS は、安全文化の向上に影響を与えることが期待できた。「エラーに関するフィードバックとコミュニケーション」「患者安全に関わる上司の考え方と行動」「組織的 継続的な改善」は、安全文化の向上に影響を与え、欠くことのできない因子だと考えられた。また、組織変革という支援からは、「上司の組織変革能力」が影響因子だと考えられた。

(3) 看護学生のための医療安全教育プログラムの研究 QSEN の安全のコンピテンシーを用いた考察を通し、医療安全を保持するために必要な知識・技術・態度の習得に臨地実習の有用

性が示唆された。既習の知識を用いて、臨地実習前に医療事故分析を行い、患者安全を守るために必要な看護師の知識・技術・態度について討議を行うこと。実習においては、看護師に同行し、臨床現場に潜む危険について思考し、予測力を培うこと。実習病院のセーフティマネージャーと事例討議を行い、専門家のリスク感性に触れる機会をつくること。など、具体的な教育内容や方法についてあげられた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

渡辺八重子、クローズ幸子、夏目隆史、鈴木真、青木久子、丸山祝子、手島恵、組織の安全文化の醸成に関わる要因の研究 - TeamSTEPPS 導入による安全文化の変化 -、日本医療安全学会機関誌医療と安全、査読有、9号、2018、17-27

渡辺八重子、クローズ幸子、米国看護大学における質と安全教育の改革“QSEN”の取り組み、看護教育、査読無、56巻1号、2015、56-63

〔学会発表〕(計 6 件)

クローズ幸子、夏目隆史、渡辺八重子、地域連携における医療安全対策の推進 - 看護師が持つべきコンピテンシーとその育成 -、第5回日本医療安全学会、2019

渡辺八重子、中川泰弥、休波茂子、QSEN コンピテンシーに基づいた医療安全プログラムの開発 - 医療安全講義・実習プログラムの試行・評価 -、第44回日本看護研究学会、2018

中川泰弥、渡辺八重子、休波茂子、QSEN コンピテンシーに基づいた医療安全教育プログラム試行・評価、第36回日本看護科学学会学術集会、2016

クローズ幸子、渡辺八重子、Evaluation of an Intervention that May Effect、QSEN National Forum 2016 全国大会、2016

渡辺八重子、クローズ幸子、手島恵、組織の安全文化の醸成に関わる要因の研究 - TeamSTEPPS 導入による安全文化の変化 -、第35回日本看護科学学会学術集会、2015

渡辺八重子、クローズ幸子、手島恵、米国看護大学における質と安全教育改革“QSEN”の取り組み、第34回日本看護科学学会学術集会、2014

〔図書〕(計 1 件)

渡辺八重子、安全：古賀雄二、深谷恵子(編)、日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護、中央法規(東京) 2019、pp.254-263

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。